

第44回津市総合教育会議議事録

日時：令和3年9月28日（火）

午前10時開会

場所：津市教育委員会庁舎4階 教育委員会室

出席者

津市長

前葉泰幸

津市教育委員会

教育長 森昌彦

委員 中村光一

委員 滝澤多佳子

委員 富田昌平

委員 西口晶子

事務局 定刻になりましたので、前葉市長から第44回津市総合教育会議の開会の御挨拶をお願いします。

津市長 ただ今から、第44回津市総合教育会議を開催いたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは、本日の協議・調整事項であります「津市総合教育会議懇談会の結果について」に入りたいと思います。まずは、事務局から御説明させていただきます。

教育事務調整担当参事（兼）教育事務所調整担当参事・教育総務課長 それでは、先月20日及び25日に開催いたしました津市総合教育会議懇談会の結果について、御説明させていただきます。

資料を御覧ください。「1 懇談会の開催の趣旨」でございますが、総合教育会議懇談会は市長と教育委員会が教育行政のあるべき姿を議論するにあたり、現場の声に耳を傾け、把握したことを次年度以降の取組に活かすことを目的として開催しております。今年度は、「ポストコロナ期の教育について」をテーマとさせていただきますでしたが、新型コロナウイルス感染症の勢いが止まらない状況下での懇談会となりましたことから、長引くコロナ禍における教育の現状について、お気付きのことやお考えのこと、また、今後終息を迎えた際に、これまでの取組をどう展開させていけばよいか等について、「2 開催日時」のとおり、津市PTA連合会本部役員の皆様、現場教職員の代表の皆様、津市小中学校長会役員の皆様、津市立幼稚園長会役員の皆様に御意見等を伺いました。

「3 主な意見の概要」でございますが、各団体からの御意見の内容を「GIGAスクール構想の推進」、「家庭との連携」、「子どもへの対応」、「コミュニティスクール」、「教職員の負担」、「その他」の6つの項目に集約し、分類させていただきました。同じ項目でも、それぞれの立場から、違った視点での御意見をいただきましたので、それを横並びに整理させていただいたものでございます。

例えば、「GIGAスクール構想の推進」に関しましては、津市PTA連合会本部役員の方々から、「保護者の理解が進むよう、学校から積極的な情報提供をして欲しい」、「子どもたちにその必要性が理解されるよう、きちんと将来のビジョンを伝えて欲しい」といった教育行政の背中を押していただけるような前向きな御意見をいただきました。一方、現場教職員の方々や、津市小中学校長会役員の方々からは、懇談会が二学期の始まる直前の開催であったこともございまして、オンライン授業に対する不安の声をいただいたところでございます。

また、「家庭との連携」につきましては、津市PTA連合会本部役員の方か

ら、「学校で過ごしている子どもの様子がわかりづらいので、動画配信等を積極的にやって欲しい」という御意見が出る一方、津市小中校長会役員の方からは、「授業参観ができない状況なので、ホームページに動画を掲載する等、工夫していきたい」という御意見をいただいております。

また、津市立幼稚園長会役員の方々からは、「子どもへの対応」の項目で、「幼児期は子ども同士の触れ合いが大切であるし、教員とのスキンシップも避けられない中、感染症対策との両立が難しい」といった幼稚園ならではの御意見をいただきました。

懇談会は8月下旬に開催しましたので、既に約1か月が経過し、二学期も始まっております。状況に進展が見られた部分も多々あるかと思いますが、本日、御協議いただきますことを踏まえまして、今後の取組に活かしていきたいと考えております。予算措置が必要な部分につきましては、来年度予算、場合によっては今年度の補正予算において、国のコロナ関連の交付金等の活用も視野に入れながら、よりよい方法で進められるよう、検討を重ねていきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。説明は以上でございます。

津市長 ありがとうございます。それでは、進め方として、この項目ごとに議論を深めていきたいと思っております。

なお、2学期が始まる直前の8月20日、25日というタイミングで懇談会が開催されましたので、「2学期が始まったらどうなるだろう」という不安を持ちながら発言がなされています。その後、実際に学校が始まってみて、どうだったのかということも含めて、今日は9月28日ですから、議論ができると思いません。

それから、もう1点、直ちに来年度の予算で取り組んで行く事柄と、もう少し中長期的なビジョンを持って実現していかなければならない事柄を、時間軸の整理もしながら、方向性を出していきたいと思っております。そして、この議論を踏まえて、来年度に向け、総合教育会議として教育行政の取組をまとめて行くことを考えておりますので、よろしく願いいたします。

では最初に、「GIGAスクール構想の推進」について、様々な意見がございましたので、この点について、現場の声をお聞きになった御感想も含め、各委員から御発言をお願いいたします。

滝澤委員 GIGAスクール構想については、我々も色々と議論してきましたし、政策を進めて行く上での目玉として、安定的に授業が進んで行くよう推進しているにも関わらず、津市PTA連合会本部役員の御意見を見ると、保護者はあまり理解していないようです。どういった形で進めていくのか、最終的にはどう

なっていくのかということ、保護者が理解していない状態で、今、進んでいるということ。始まったばかりということもあるのですが、これは、より保護者の理解が進むような具体的な施策を進めていく必要があると思います。保護者には様々な意見があつて、紙と鉛筆で勉強することにも、もちろん良い面があるのですが、将来を見通すと、タブレット等のICTを活用する世の中になっていくことは間違いないと思います。そういったことも含め、今後、津市がどのような形でGIGAスクール構想を進め、最終的にはどのような形に持っていきたいのかということ、それから、実際の授業との関わりをどうするのかという具体的な構想が必要ではないかと思っております。

津市長 いかがですか。教育長。

教育長 基本的には、国が言っている個別最適化と協働学習を合わせたものですが、この懇談会の時点では、確かに学校によって随分と発信状況に差があつたという印象でした。こまめに情報を発信している学校もあれば、なかなかできていない学校もあつて、保護者の不安感があつたと思うのですが、9月から子どもたちが家庭で午後からオンライン学習をやっていますので、かなり状況が変わってきています。学校から詳しく説明をしているはずですが。

教育支援担当参事（兼）教育研究支援課長 先程、教育長がおっしゃったように、今年度4月からタブレットを配付し、本来であれば、4月のPTA総会や1学期の授業参観、学年懇談会等の際に、保護者へしっかりと説明させていただいて、津市や各学校が目指しているところをお伝えし、子どもたちの様子を実際に見ていただくべきところでしたが、コロナ禍という状況の中で、なかなか難しかったということがあります。

ただ、難しかったからと言って、やらないということではいけませんので、今回、PTAから御意見をいただきましたので、津市教育委員会として、まず、9月に1学期の子どもたちの活動内容をまとめたチラシを保護者に向けて配付させていただきました。更に、各学校からも発信してもらおうと準備をしていたのですが、緊急事態宣言が出まして、子どもたちが実際にタブレットを持ち帰ることになりました。保護者からは、「もっとおもちゃのようなタブレットを想像していましたが、大人が使うものと同じでびっくりしました」、「本当に1年生の子どもに使わせていいのですか」といった声が学校や教育委員会に届きました。実際に、子どもたちがZoomやロイロノート・スクールを使っている姿を見ていただき、学校も、通信や連絡メールでどういうことに使いたいのかを発信した1か月でしたので、保護者にこういった形で使っていくところを、少し見ていた

だけだと思います。ただ、タブレットを使って今後どのような授業展開をしていくのか、子どもたちにどのような力を付けていくのかという辺りにつきましても、まだまだ保護者への説明が不足していると思いますので、10月になりましたら、PTAと相談しながらPTAの広報誌等も使わせていただいて、発信していきたいと思っております。以上です。

津市長 今の話を受けて、いかがですか。滝澤委員。

滝澤委員 PTAと話をさせていただくのは非常に良いことだと思いますが、そこから一般の保護者にきちんと伝わるのかということが気になります。PTAから発信すると言っても、広報誌をしっかりと読むかどうかもわかりませんし、学校ごとに懇談会の開催状況等もまちまちですと、浸透するまでに相当時間がかかるのではないかと思います。ですから、日頃から何か機会を設けて、一般家庭にしっかり理解してもらえるような施策を取っていかなければならないと思います。おそらく、PTAの役員は、意識の高い方が多いと思いますので、忙しくてなかなか広報誌も見られないような保護者にまで浸透するような施策をお願いしたいと思っております。

津市長 そうですね。他にいかがですか。西口委員。

西口委員 懇談会は2学期の始まる前で、PTAの方々がおっしゃっていたように保護者の理解が進んでいない状況でしたが、2学期が始まってから、保護者とお話ししたら、タブレットを持ち帰ったことで、一気に理解が進んだと感じました。いつまでオンライン学習が続くのか聞かれて、しばらく続くと答えたのですが、その方は、「2時15分からオンライン授業が始まるので、子どもは走って帰ってきて、それに間に合うように私が設定をして、毎日横で見ているのです」とおっしゃっていました。考えてみると、教員は毎日授業参観をしているようなものなので、きっと配信するために教材研究もしっかりして準備したうえで、授業をしていたのではないかなと思いました。

それから、タブレットの持ち帰りに関して、小学生はランドセルの2段目にちょうどタブレットが入るスペースがあるので、ほとんど破損することなく過ごせたと思うのですが、中学校はスクールバッグの中に入れるので、きっと何らかの不具合や破損があったのではないかと思います。そういった課題も、今回、明らかになってきたのではないかと思います。

もう1つ、今週から平常日課に戻りましたが、私が毎朝、登校指導している学校の子どもに、タブレットは学校に置いてきているのか聞いたら、まだ、毎日ラ

ンドセルに入れて持ち帰っていると言っていました。理由を聞いたら、家庭の事情で万が一休むようなことがあっても、オンラインで授業を受けられるからだとして説明してくれました。子どもがそこまで理解して、ランドセルの中に重いタブレットを入れて毎日登校しているわけですから、保護者にもオンライン学習について一定程度、認識はされたのではないかと思います。

GIGAスクール構想はオンラインばかりではなく、道具としての使い方が色々あるので、今後、学校現場で先生たちが工夫していただきたいと思います。

津市長 保護者の理解については、百聞は一見に如かずで、実際に目で見て、かなり進んだと思います。一方で、タブレットの破損の話がありますし、授業する側の教員の負担について、現場の教員からの心配の声や、校長からの教員間格差の話が出ていましたが、その2点について、いかがですか。

教育長 タブレットの破損の話は、確かに厳しいところです。故意ではないのですが、子どもですので、ぶついたり、自転車で転んだりといったことは起こります。来年度に向けてもですが、今年度についても、実はどうしようかと悩んでいるところです。

それから、教員の負担については、今回9月以降の方針を決める時に、昨年度の4月、5月の学校現場の負担等、様々な状況を踏まえつつ、今回はどうしてもタブレットを家庭に持ち帰って、オンライン学習をやりたいということがありました。確かに、午後からだけでも、毎日が授業参観ですね。ただ、津市の場合、前にも申し上げましたように、ずっと教室と家庭をつなぐということではなく、うまく色々なものを組み合わせて学習モデルを作っていますので、そのあたりでうまくやっていたらと思っています。今後、その辺りをどうしていくか、まだまだ対応を詰めていかないといけないと思っています。

教育研究支援課教育研究・情報教育担当副参事 1学期からしっかりとタブレットを活用してきていますので、引き続きしっかりやっていければと思っています。ロイロノート・スクール、みんなの学習クラブタブレット、Zoom、e-Learningポータルなど、いくつかツールがありますので、それらを必要に応じて、どう組み合わせていくかが大切になってくると思います。

津市長 あまり語られていないことなのですが、他の自治体で、全てオンラインでやったところがあって、そうすると教員が5、6時間分、オンラインで授業することになります。しかし、どうしてもそこまで準備が追いつかないようです。

他の自治体のことなので、あまりリアルには伝わってこないかもしれませんが、自らが得意とする教科は良くても、そうでない教科はなかなか難しく、特に小学校でそういったことが起きているようです。津市の場合は、午後だけにしたことによって、教員はある意味2時15分からの授業に、かなり集中して取り組めたということはあるようですね。そういう意味で、テイクオフとしては良かったかなと感じます。しかしながら、いざ全てオンラインになった時でも、対応できるように教員の養成は、是非お願いしたいと思います。

タブレットの関係で、他にございませんか。富田委員。

富田委員 うちには今、小学生と中学生の子どもがいますが、午後からのオンライン学習がきちんとできるのか、とても心配でした。私以上に妻が心配して、午後から仕事の休みを取っていましたが、周りを見ても、やはり子どもができるか心配で、午後から休みを取ったという人がたくさんいました。

いざやってみると、意外とうまくできることがわかって、次の日から休むのをやめたという話も聞きましたので、今回の取組は大変良かったと思っています。私自身も、何回か休みをとって、子どもが取り組んでいる姿を見ていたのですが、ロイロノート・スクールを中心に進め、帰りの会をZoomでつなぐということが多かったように思います。Zoomにあまり慣れていなかったのも、うちの子どもも初回から2回目ぐらいまでなかなか入れず、泣きながらやったと聞きましたが、子どもたちが適応するのは、本当に早いと感じました。

ロイロノート・スクールを使っているところを横から見て感じてのですが、私自身、授業参観の時にロイロノート・スクールを使っているのを見たことがありましたし、ここでも拝見させてもらって多少知識があったのですが、まだよくわかっていなかったところがあって、「こんなことができるんだ」と驚くことがたくさんありました。自分たちが小中学校で過ごした時の学習方法とはあまりに違いすぎて、しかも、想像のかなり上を行く学習方法だと思うのです。ですから、保護者の「GIGAスクール構想って、一体何をやっているのだろう」という思いはなかなか拭えないのではないかと思います。広報誌等の誌面で知らせるレベルだと、ピンとこないと思いますから、例えば、各家庭にQRコードを渡して、ロイロノート・スクールのPR動画を見てもらうとか、あるいは紹介動画を作ってYouTubeで配信するなどしたほうが早いのではないかと感じました。

津市長 保護者会を1度、オンラインでやってみたらいいのではないですか。

西口委員 賛成です。これだけ学校と家庭がつながるのであれば、学校へ出て来られる人、出て来られない人を考えずに済むので、オンラインで保護者会をした

らいいという話をしていたところです。

津市長 今回のPR動画のお話は、非常にいい案だと思いますので、是非参考にしてください。他に何かありますか。

中村委員 今回、様々な御意見をいただいた中で、特に印象深く感じたのは、現場教職員の方々の不安に関する御意見でした。ハード的なトラブル、通信回線上のトラブル、それからアプリの操作上のトラブルなど、基本的なところへ対応するためには、ソフトの動かし方をわかっているだけでは、なかなか難しいと思いますので、いわゆるヘルプデスク的な機能の充実が必要ではないかと思います。

教育委員会事務局の指導主事で対応するのは、非常に難しい面があると思いますので、こういった方法がいいのかわかりませんが、もっと違うレベルのサポートが必要なのではないかと感じています。

津市長 その辺りの教育委員会の見解はいかがですか。

教育支援担当参事（兼）教育研究支援課長 今回、オンライン学習をした時に、子どもたちがZoomに参加できなかつたり、教員が予想もしていなかったトラブルが生じて、うまくいかなかつたりして、教育委員会へ連絡をいただき、解決方法をお伝えしたこともありました。各学校へ調査した中で1番トラブルが多かったのが1日目、2日目で、徐々に数は減っていきまし、**「教育委員会に聞きながらでも自分たちで解決したことで、1つ自信に繋がった」**という話を多くの学校から聞かせてもらいました。

ただ、これはオンラインで家庭と学校をつないだ時のトラブルですので、これから授業で日々使っていくとなると、新たなトラブルが生じると思われます。教育委員会と連携しながらでも解決できるようなところは、先生たちにも力をつけていただきたいのですが、それでも難しい状況がありましたら、ヘルプデスクの設置を中長期的には考えていかなければならないと思っております。

津市長 色々と御意見ありがとうございました。今、委員からの話には出ませんでしたが、津市小中学校長会からいただいた教員用のタブレットの話や電源保管庫の使い勝手が少し悪い学校があるという話、それから、最近出てきた破損対応の話について、来年度予算での対応など、教育委員会として、しっかり検討してください。小学校で言えば、6年生が卒業して1年生が入学してきますので、6年生と1年生の人数の差分のタブレットが余ってくるはずで、そういったことを含めて、うまく回していけるよう考えてください。

では、続いて家庭との連携についてです。様々な意見が出ている中で、特に現場教職員の代表の方々から出た給食についての意見に関してですが、給食を食べて帰り、昼からオンライン授業をするという取扱いに対して、様々な声が届いたと思います。「意味がわからない」という声から「よくやってくれた」という声まで様々あったと思うのですが、保護者ないしは子どもたち自身の捉え方等、教育の現場の捉え方はどうでしたか。午前中だけ授業をするのだったら、給食無しで帰るのが普通という中で、あえて感染リスクが高いと言われている給食を食べてから帰宅し、午後に自宅学習するということに対して、何か反応はありましたか。

教育長 中学校だけだったら、話は違っていたと思いますが、小学校の低学年、中学年の子どもの居場所のことを考えたら、当然、給食もセットにしないと意味がないだろうというのが根本の考え方です。感染のリスクについては本当に心配でしたが、これまで1年半の間、学校現場はずっと感染症対策をやってきましたので、100%とまでは言えなくても、手応えとして学校は十分対応できるという、大きな信頼感がありました。黙食など、世間の大人が思っている以上にきちんとできています。とは言え、非常に難しい決断ではあったのですが、とにかく津市の教育委員会は放課後児童クラブも一緒になって、子どもの居場所を確保するということに対して、非常にしっかり意識して取り組んできたつもりです。ですので、リスクはあるけれど、給食無しで子どもを帰すというのは、あり得ないと思いました。感染のリスクをできるだけ低減するため、学校が家庭に呼びかけながら、できる限りのことはやっていただくということで、腹をくくるしかなかったと思いました。

津市長 教職員の意見にあるように、給食が無ければ仕事に行けないという保護者もいるので、そういう方々のためにも給食はやるべきだという強い思いで決断したわけですが、いかがですか。何か御意見がある方は、どうぞ自由に御発言ください。

中村委員 この決断は非常に素晴らしかったと思っています。様々な家庭の形がある中で、やはり給食が無ければ困るという家庭が、実数としてはわかりませんが、確かにあります。そういう家庭の子どもたちが、きちんと生活できるよう対応できたのではないかと考えています。余った分の食材をどうするかという問題もあったと思いますが、非常に素晴らしい結果になったと思いますので、今後も、もし同じ状況になれば、必要な措置だと思っています。

滝澤委員 私も同感です。給食を食べて帰すということが伝わった時点で、市長が言われるように、「意味がわからない。津市は何を考えているのか」といった言葉ばかりを聞いたのですけれど、一方でとても助かっている保護者もいます。

「仕事に行ける」、「子どもが安心して過ごせる場所がある」と喜んで見える保護者もいるのですが、そういう方は、あまり積極的に発信しないので、給食実施に反対する声の方が届きやすかったのだと思います。結果的に、最近、感染が収まってきたこともあって、給食を食べないで帰る子どもたちが少なくなってきたということで、教育長が感染症対策を万全に進めていただき、学校をうまく運営できていますので、非常にありがたいと思っております。英断だったと思っております。

津市長 英断だったと言っていました。西口委員。

西口委員 学校教育をしていく時に、給食をどうするかということは、いつも考えていかなければならない重要なことなのですが、なかなか話題の中心にくることはありませんでした。今回のことは、給食の在り方を、改めてみんなで考える良い機会になったのではないかと思います。

学校現場の給食実施に向けての努力は、本当に涙ぐましいものがありました。できるだけ密にならないよう空き教室を使う、窓を全開にする、先生たちがエプロンを付けて配膳をするなど、それだけの努力があって、今回ここまで来られたということを、私たちはきちんと心の底に置きながら、今後のことを考えていかなければいけないと思います。

富田委員 私も、給食実施は英断だったと感じています。先程、教育長が子どもの居場所作りが大事で、そのために給食はセットだとおっしゃいましたが、まさにその通りです。今後の津市の教育においては、子どもの居場所作りを優先して取り組んで行っていただければと感じました。

津市長 そうですね。概ね腹をくくってやった甲斐があったように思いますが、1つだけ、現場で食べる子と食べない子の間に分断が起きていないかということが少し気になっています。前の知事の息子さんは、1日目に「みんなが帰るから帰ってきた」と急に帰ってきて、御家族がびっくりしたそうです。2日目からは、「食べてきてもいいよ」と言われ、「それなら食べてくる」と嬉しそうに食べて帰ってきたという話を聞きましたので、その位おおらかならいいのですが、親から「絶対に食べずに帰ってきなさい」と言われている子どもに対して、そうでない子どもが「なんで食べないのか」となるようなことは無かったですか。子ど

もたちの間で、給食を巡る分断というのは起こっていないですか。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 今のところ、学校からそういったことは聞いておりません。

しかし、給食のこともそうですが、感染が心配でずっと登校していなかった子どももいて、この1か月は、家庭の状況によって学び方が様々でしたので、そこはしっかりと家庭と連携を取りながら見ていかないといけないと思っております。

津市長 そうですよ。高校生ぐらだと、オンライン授業に関しても本当に自己責任です。ルールもかなり自由で、体の一部が映っていればいいということで、服を掛けて画面に映るようにしておいて、本人はベッドにいるというような話を聞くこともあります。小中学校の場合は、結局、今回のようにイレギュラーなことをする場合、本人の判断もさることながら、親の判断で対応するケースが多いので、その辺りについて、丁寧に気を配っていただければと感じました。

さて次に、「子どもへの対応」について、御発言をいただければと思います。少人数学級を中学校にも広げてほしいという御意見がありました。私は元々、コロナ対策で少人数学級にするなら、小学校より中学校の方が先だと思っておりましたが、いずれにせよ、中長期的にしっかり取り組まないといけないところだと感じています。

それから、教室へのエアコンは一通り付けたばかりなのですが、こうやって現場の校長から、もう少し増やしてもらえないかと御意見が出ています。コロナの前にエアコンを付けることを決断し、付けたわけですが、今回、コロナ対策として、クラスを少人数に分けなければならない時に、一方がエアコンのある部屋、もう一方がエアコンのない部屋になってしまうという新たな問題が出てきたのだなと思いつながり聞いていました。

幼稚園については、幼稚園ならではの話が出ていましたので、この辺りについては富田委員から上積みがあるかと思えます。では、このテーマについて、どうぞ。富田委員からお願いします。

富田委員 現場教職員の代表の方々との懇談の中で、子どもたちがとても我慢しているの、我慢している子どもたちに寄り添って、何か楽しいことを作り出して欲しいという話をしました。先日、新聞の投書欄で、子どもに「今は我慢なさい」と言うけれど、思ったよりも我慢させる時間が長く、心理的な負担をかけていることがとても心配だと書いてある記事を見ました。

また、ある精神科医の記事で読んだのですが、子どもたちが仲間たちといわゆる

る感動体験を共有することによって強化される連帯感や、あるいは感動体験によって作られる子ども時代の良い思い出が、後々の人生で大きな励みになるそうです。それが、今回のような状況で感動体験をする場や、機会が失われることによって、子ども時代が空っぽになるということが起きてしまいます。子ども時代が空っぽの人たちが、将来、大人になって社会を形成していくと、一体どうなるのだろうという心配が書かれていました。

なかなか難しい状況ではありますが、部活動も大会等がどんどん無くなっている中で、例えば吹奏楽であれば、体育館に集まって無観客で演奏し、動画を撮って配信するというをやっている学校もあれば、やっていない学校もあります。学校によっては、「うちの学校では、そういったことはやりません」と軽く流されたという話も聞きますので、子どもへの対応として、本来であれば子どもたちが経験していたであろう感動体験に少しでも近付けるようなことや、子どもたちが良い思い出を作れるようなことを現場でやっていって欲しいという思いがあります。

津市長 そうですね。子どもたちの精神的なところをどう取り戻すかは、非常に重要なテーマです。教育長から何かありますか。

教育長 去年は、とにかく何もわからなかったので、できるだけ全てを控えておこうというスタンスで来ましたが、今年は、修学旅行を含め全てにおいて、実施するために何ができるかというスタンスにシフトしてきています。

そうは言っても、やはり学校としては不安があって、校長が心配して「やっぱりやめておこう」となってしまうこともあり、学校によって様々です。私の本心としては、基本的にはやっていけないといけないとっていて、そうでないと子どもたちがかわいそうです。子どもはどんな状況でも明るく元気に過ごしているのですが、2年間で空っぽになってしまうのは本当に怖いです。特に、幼稚園児にとって、就学前の2年間は本当に大きいです。今後も、幼稚園を含め、できることをやっていくというスタンスでやっていきたいと思っておりますので、それに対して何か支援を考えていかなければならないと考えています。

津市長 他にございませんか。西口委員。

西口委員 今日の登校指導の時の話なのですが、ある女の子に、「昨日から平日課に戻ったけど、学校はどうなの」と聞いたら、顔がぱっと明るくなって、嬉しそうに「今日から運動場で友達と遊べるようになりました」と言うのです。その子は、普段からにこにこして、何かを辛抱しているようには見えなかったのだ

すが、そう言われてみて、これまでの日常を何とも思わず過ごしてきたけれど、実は辛抱していて、きつかったのだろうなと思いました。

この1か月、各学校は、特に罹患した子どもや罹患した家族の濃厚接触者になった子ども、外国につながる子どもや特別な支援の必要な子どもについて、必死に対応しながら持ちこたえてきてくれたのではないかと思います。

だから、これから徐々に徐々に、失くしてしまったこの2年間は戻りませんので、新たな一步を踏み出して行ってほしいと、今日、その子の笑顔を見ながら思いました。

津市長 そうですね。中村委員、いかがですか。

中村委員 園長先生たちの話を聞いて、本当に幼稚園児への影響を強く感じました。孫をあやしていても、こちらの口の開き方で全然反応が違うので、それがマスクをしながらの保育となると本当に大変だと思いました。コロナはまだ4、5年、こんな状況が続くといった話も聞きますので、難しいとは思いますが、その辺りの対策をしっかりしていただく必要があると感じます。先生たちは、現場で一生懸命考えて取り組んでいただいていると思いますので、是非、事務局からも支援をしていただきたいと思います。

津市長 他にいかがでしょうか。滝澤委員。

滝澤委員 教育長が言われたように、「できるだけやっ払いこう」という姿勢はとても評価できることだと思います。それを明確に発信することによって、積極的な活動が可能になってきますので、状況を見ながらではありますが、例えば、こういう状況であれば運動場に出てもいい、部活動をやってもいいといったように、ある程度の目安、行動の指針になるようなものを示していただくと、現場はやりやすいと思います。

マスクを外せる日まで我慢の連続で、現場に即応した対応が必要ですし、今であれば、修学旅行には行っていいと言っていると思うのですが、そういった具体的な目安を出していただくと良いと思います。

津市長 ガイドラインは、ある程度示しているのではしたよね。

教育支援担当参事（兼）教育研究支援課長 はい。ガイドラインと言いますか、方向性を出しております。滝澤委員がおっしゃったような「こういう状況の時はこういうことができますよ」というところについては、ある程度細かく「社会見

学についてはこうです」、「遠足についてはこうです」といったように示しております。また、ある程度は示してあるのですけれども、状況の変化を受けて、もう一度、今日、明日ぐらいに文書を出そうと思っております。

それから、修学旅行については、先週末に、ある中学校の校長から電話をもらい、「10月11日に予定しているのだけれど、緊急事態宣言が解除されても、やはり心配なので11月、12月に延期するのはどうだろう」という相談を受けました。私が「子どもたちはどう言っていますか」と聞きましたら、「子どもたちは、今までの流れから行くと10月が1番安心だから行きたいと言っています」との答えでした。子どもたちは、「今までさんざん下調べをしてきたので、とにかく行かせてほしい」、「今しか行けない。みんなで1泊させてほしい」と熱望しているというので、「是非、行ってください。キャンセル料のこともありますし、いずれにしても心配は付き物ですので、子どもたちの気持ちを大事にしましょう」と話をさせてもらいました。そのようなやりとりを学校としながら、1つ1つの行事をより一層大切にしていこうというメッセージをこれまで以上に発信していきたいと思いました。

津市長 ありがとうございます。それでは、あと15分ぐらいになりましたので、残りの3項目、「コミュニティスクール」、「教職員の負担」、「その他」について、御発言をお願いしたいと思います。どの項目からでも結構です。では、中村委員からお願いします。

中村委員 エレベーターの話がありましたが、これまでの取組の中で積極的に対応していただいていると思うので、引き続きということになると思います。予算もかなりかかるとは思いますけれども、何とか進めていただけると良いなと思います。

津市長 これについて、考え方はどうですか。

教育長 バリアフリー法の改正といった動きもありますので、当然1つの方法としてはあります。例えば、障がいを持ったお子さんが入学することになれば、当然合理的配慮が必要になりますので、学校は、必ず保護者と様々なことについて話をし、合意形成を図ります。その中でエレベーターの話が出てくることもあると思うのですが、教育委員会も学校も合意形成を図っていくことを大切に進めますので、そういった前提の中で、バリアフリー化やエレベーターの設置を計画的にやっていくということなのです。

津市長 この問題について、私も三教組の津支部長と話をする中で、ずっと考えてきたのですが、教育委員会側は、よく校舎を直す時にエレベーターも一緒に付けると言うのですが、ある意味、その理屈はこちら側の都合なのですよね。また、先生たちが「この子が今度、4年生になって上の階の教室に行かなくてはならないので何とかしてほしい」という話も、そこから予算をとって、設計をして、設置するとなると、どうも後手に回ってしまうので、それも気になっています。就学前の子どもで、エレベーターを必要とする子どもがいれば、前もって調べておいて、その子が入学してくる前に工事しておくようなことはできないのですか。何か作戦を立てられないものかと感じました。

教育総務課教育財産担当副参事（兼）施設担当副参事 市長が言われるように、エレベーターが必要な子どもが入学するまでに何とかしてほしいというのが、学校側の意見であり、保護者の意見でもあろうかと思えます。エレベーターがあれば、確かにとても良いとは思いますが、例えば、エレベーターに至るまでの玄関スロープ等も設置していない学校が多数あります。また、国からは、エレベーターだけを単一的に設置するのではなく、建物全体を安全かつ円滑な移動ができるよう、利用しやすさを念頭に置いて計画、設計しなさいとも言われておりました、そのようなことから、今年度から進めている長寿命化のための改修を機会に進めていくこととなります。全部の学校にエレベーターがあるのが、当然良いと思えますが、現在は、児童生徒が長時間使用する普通教室が含まれる棟を優先するといった基本方針に基づいて順次、長寿命化に取り組んでおり、令和3年度も3校について長寿命化を実施する中で、エレベーターを設置します。参考までに申し上げますと、小・中・義務教育学校68校のうち、今年度設置する分を除き、9月1日現在で23校にエレベーターが整備されている状況でございます。

津市長 エレベーターの必要な子どもが入学するから、直ちに付けろと言っているわけではないのですが、そういう要素も勘案すべきだろうと思えます。

では、他にいかがですか。富田委員。

富田委員 教職員の負担について、先程GIGAスクールのところで、個別最適化という話が出ましたが、国は最近、GIGAスクールと合わせて個別最適化のことを言い始めたように思います。個別最適化はとても大事なのですが、これまでは、それをやろうとしたら、人手がかかってしまうから言ってこなかったのだらうと思うのです。それが急にGIGAスクールで「AIを入れたら個別最適化できるでしょう」と言われている感じです。でも、これは結局、教員には負担になると思うのです。タブレットを導入することによって、個別最適化という部

分は、多少なりとも見えやすくなったとは思いますが、人手を増やさなくて済むという話ではないと思うのです。そこのところを、現場としてはどう考えているのか、お聞きしたいです。

津市長 いかがですか。

教育支援担当参事（兼）教育研究支援課長 個別最適化の1つとして、不登校の子どもがタブレットを使うことによって学校とつながることができるのではないかとことを国も言っています。今回、1か月間、オンライン学習をする中で、ずっと不登校だった子どもがオンライン授業に参加できるようになったという事例が何件かありまして、先生たちにも手応えを感じていただきました。ですが、富田委員がおっしゃるように、オンラインで参加できても、教室で授業を受けている子どもたちとはまた違う、個別の対応がもう一つ必要になってきます。不登校の子どもや、コロナを含め病気で登校できない子ども、特別な支援の必要な子ども等、1人1人に対応していこうと思うと、やはり機械だけではなく、対応する教員のスキルや、人的な支援がないと、なかなか厳しいということを、この1か月の先生たちの声から感じました。機械にはとても大きい力があるのですが、やはり人の力は欠かせないと思います。

津市長 先生たちの負担になっている部分があるということですね。文部科学省が言うのは、全体調和と個別最適化という2つの別のテーマというよりも、個別最適化も頭に入れていきたいと思いますということだろうと思うのですが、いかがですか。西口委員。

西口委員 様々な業務が上乘せされてくると、教員だけで回っていかないのは、目に見えていますので、私は、スクール・サポート・スタッフや教員支援員の配置を拡充して行ってほしいと思います。

それから、もう1つ、タブレットの中に様々なソフトが入っていますが、その利用料は今後どうなるのか、もし予算措置が必要ならば考えてほしいと思います。

津市長 そうですね。タブレットのソフトは、これから有料になるものがあるのですか。

教育支援担当参事（兼）教育研究支援課長 今年から予算を計上して、全ての学校で使えるようにしております。今後、また個別の話で必要な状況になりました

ら考えていきます。

津市長 スクール・サポート・スタッフは、来年度に向けてどうですか。財源は、国3分の1、県3分の2だったと思いますが、県の教育長が県政要望の時に少し気になる発言をしていました。木平教育長が、県はスクール・サポート・スタッフの財源に国のコロナ交付金を充てているので、コロナ交付金が無ければできないというようなことを平気で言うものだから、「これは国の事業なのに、補助裏が出せる、出せないという話ですか」と言ったら、「そうです。県が補助裏を出せなければ国からも出ません」と言われました。だから、「補助裏にコロナ交付金を充てるかどうかという話の前に、三重県はスクール・サポート・スタッフの数が少なかったんで、私が当時の廣田教育長にもっと取ってきてくださいと強くお願いして始まった話です。県の教育委員会がそのような議論をしているのだったら、それは本筋から外れているので、たしなめておいてください」と強く言い返してきました。もう1つ、私が強調してきたのは、なぜスクール・サポート・スタッフが現場でうまく機能しているのかということ、津市では教員支援員が先行していたからだとことです。「教員支援員が先行していて学校現場がどうサポートしてもらえるのかわかっていたからこそ、津市ではスクール・サポート・スタッフがとてもよく機能しているのですよ」と教育委員会に成り代わって言うておきました。

滝澤委員 このコロナ禍で教員の負担が非常に増大していますし、更にGIGAスクール構想で、タブレットの活用等、これまでとは違う指導方法になってきています。機器の使い方やオンライン学習への対応など、ハード面、ソフト面が全て現場の教員にのしかかってきていますので、本当にスクール・サポート・スタッフなり、教員支援員なりを、予算の許す限り、増員していただきたいと思います。教員は、なるべく指導に専念できる形にしていただければと思います。

それと同時に、やはり地域との連携といいますか、地域の人を借りないと全体的に教育が進んでいかないと思うので、コミュニティスクールがこれからの課題だと思います。ポストコロナ期には、是非コミュニティスクールをもう少し進めていただいて、地域に手助けいただける方法を見つけながら、理解も進めていただきたいと思っています。

教育長 働き方改革を進めるには、絶対コミュニティスクールが必要だと思っています。スクール・サポート・スタッフはとても大事で、たくさん欲しいのですが、根本の部分ではないのです。様々な部分で助けていただいて、教員が子どもたちと向き合う時間を増やしてもらってはいるのですが、学校の根本の部分は、

地域の協力や理解があつてこそ、初めて成り立つことがたくさんあります。各学校が意識して発信することで、理解を得て、教員の働き方改革につなげられるように、津市としても、もっと働きかけていかないといけないと思っています。

津市長 様々な御意見をいただきました。ありがとうございました。

次回に向けてなのですが、今日は、コロナ対応の部分でかなり議論が出ました。それから、今日は9月28日で、昨日から学校が平常日課になりましたし、10月1日から緊急事態宣言が解除されて、また状況が変わってくるというような中での開催となりましたので、まだ9月1か月間の総括ができていません。9月の状況を踏まえて、10月以降に、来年度に向けてどのような体制を取っていくかを議論していきたいと思います。

それから、これまでにコロナ対応として、かなりのことをやってきました。直接国から入ってくるお金もありましたし、感染症対策の経費に使うために各学校に割り振られたお金もありました。それから、コロナ交付金で、避難所としても使うということで、学校トイレの洋式化を進めたり、古くなっていた保健室のエアコンを取り替えたりと、様々なことをやりました。コロナ交付金が今後、どれぐらい続くか見通しがつきませんが、見通しがつかないからと言って、そのままにしていると、出遅れてしまいますので、交付金がきたら、すぐに対応できるようにしっかり弾込めをしておく必要があると思います。

したがって、次回は、コロナ対応の9月の様子から入って、今出ているような議論に対し、来年度どう事業化していくかという、少し違う角度からやってみたいと思います。それらを踏まえて、その次の回から大きく方向性をまとめていくということにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

他に、委員から何かございますか。よろしいですか。

では、以上で議論を終わりたいと思います。

事務局 それでは、本日の事項は終了いたしましたので、前葉市長から閉会の御挨拶をお願いします。

津市長 以上を持ちまして、第44回津市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。